

林野庁 東北森林管理局 森林技術・支援センター

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001 FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijutu@rinya.maff.go.jp

HP : <http://www.rinya.maff.go.jp/>

tohoku/syo/gizyutu/

低密度植栽試験現地検討会開催

9月17日(木)に三陸北部森林管理署の区界高原で、10月26日(月)には山形森林管理署最上支署の及位において、各県、林業事業体等を対象に低密度植栽試験現地検討会が開催されました。

三陸北部森林管理署の現地検討会では、青森県、岩手県、秋田県及び宮城県から総勢約60名の参加をいただき、午前中の講演では、東北森林管理局担当者より一貫作業システムを含む林業の低コスト化全体の説明、当センターより平成26年度から国有林で行っている低密度試験の調査内容及び一部結果の報告について、その後森林総合研究所東北支所担当者より低密度植栽の効果と問題点及び東北地方における低密度植栽試験の事例について説明があり、木材価格が低迷する中で、カラマツとスギの植栽手法について興味深く聞き入っていました。

午後からは試験地でカラマツの植栽木、隔年下刈りなどの生育状況を確認し、参加者からは「アカマツの低密度植栽試験はしないのか」、「この500本区で生存率が悪いようだが、なぜか」等の質問・意見が出されました。また、実際に現地で低密度での植栽や下刈りを実施した業者からの「植栽する際に苗の間隔が違うので大変だった」や「地拵えをした際の枝条を等高線に沿って筋状に整理するのではなく、互い違いに整理してもらおうと下刈りしやすい」などの意見要望が出されました。



講演の様子

山形森林管理署最上支署の現地検討会には秋田県、山形県から総勢約50名の参加をいただき、東北森林管理局担当者より一貫作業システムを含む林業の低コスト化全体の説明、当センターより平成26年度から国有林で行っている低密度試験の調査内容及び一部結果の報告について説明し、その後試験地でスギの植栽木などの生育状況を確認しました。

参加者からは「異なる植栽密度で植えるときにどのような方法で植えたのか」、「筋刈前提で植栽したのか」等の質問・意見が出されました。また、実際に現地で低密度での植栽や下刈りを実施した業者から「低密度箇所では植栽間隔が異なるため通常より大変だった」などの意見が出されました。



森林技術専門官による説明

当センターでは、今後も引き続き低密度植栽試験地の調査データを収集し、植栽本数や無下刈りの検証等をすすめることとしています。

一貫作業システム現地検討会開催

10月7日（水）、各県、林業事業体等を対象に一貫作業システムの現地検討会が秋田森林管理署湯沢支署の高松沢で開催されました。

当日、現地検討会には東北森林管理局管内の5県から総勢約150名が参加し、午前中の講演では東北森林管理局担当者より一貫作業システムを含む林業の低コスト化全体の説明、その後森林総合研究所東北支所担当者より「一貫作業の効果と課題」について説明があり、木材価格が低迷する中で、カラマツとスギの植栽手法について興味深く聞き入っていました。

午後からは試験地で一貫作業の植栽箇所ですぎのコンテナ苗の生育状況の確認の後、業者によるコンテナ苗植栽のデモンストレーションや、参加者に実際にコンテナ苗の植栽作業をしていただきました。

参加者からは「この箇所では下刈は何回行うのか」、「コンテナ苗をどういった形で植栽していったのか」等の質問・意見が出されました。また、実際に現地でコンテナ苗の植栽を実施した業者からは「地表処理していない箇所だと植栽するのが大変だった」などの意見が出されるなど、活発に意見交換が行われました。

今年度、コンテナ苗の普及啓蒙や一貫作業システムによる現地検討会が署単位で5箇所で行われ、それぞれの地域での波及効果が期待されています。

岩手県低密度植栽地(葛巻町民有林)で視察を兼ねた合同調査

平成27年10月22日（木）に葛巻町にあるカラマツ低密度植栽地において、岩手県林業技術センターと森林技術・支援センターで合同調査を行いました。

この試験地は個人所有であり、岩手県で平成23年から設定し、調査を行っています。試験地は平成23年にカラマツの苗を植え、そこで1haあたり1000本区、1800本区、2500本区を設定し、植栽木には目印として、青のグラスファイバーポールを設置し、植栽してから生長調査などを行っています。試験地の周辺植生はアカマツで下層植生はクマイチゴ、キブシ、ヌルデ、ヤマカシウ、ササ類、ホオノキ、クリなどが見られました。

当日は岩手県林業技術センターと当センターの4名でカラマツの成長調査を行い、当該地のカラマツの成長量には個体による差がありました。数年後には植栽密度による成長量の違いが結果に現れてくるのではないかと思います。

今後も合同調査等を通じて、民有林の現状把握や民国連携して共同研究し、データ共有できるような体制に移行できるように、取り組んでいきたいと考えています。



合同調査の様子

中里中学校と空中取り木苗の植樹体験を実施

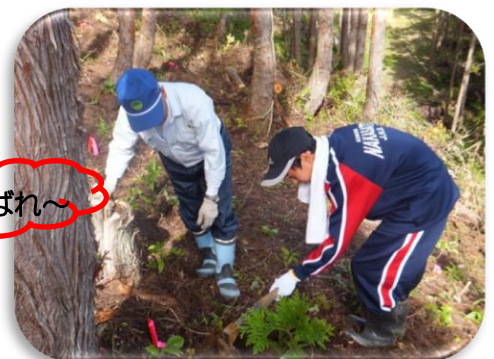
中泊町立中里中学校の「遊々の森」の活動の一環で金木支署と当センター共催で森林環境教育を行っており、6月に1年生59名が作製したヒバの空中取り木苗の植栽を10月1日（木）に行いました。

金木支署管内の今泉山国有林において、12班にわかれて日頃使う機会のない鋤を使い、地面の根などの堅さに悪戦苦闘しながら、職員の手導のもと、穴を掘って自分たちの作った苗木に愛情を込めながら丁寧に植えていました。

生徒から一番の感想は「堅くて穴を掘るのが大変だったけど大きく育ててほしい」でしたが、今回山で苗木を植えることを体験したことで、苗木を植えることの大変さや木を植えることの大切さが伝わったのではないかと思います。



がんばれ〜





森林技術普及の窓



森林技術普及専門官
(盛岡署駐在)

～平成27年度森林総合監理士等育成対策事業の第二弾～

東北ブロックの実践研修が盛岡周辺で開催

今年度の森林総合監理士育成研修事業による実践研修(現地検討)が9月のブロック研修に続き10月29日と30日の2日間で盛岡市・八幡平市において実施され、受講生として東北各県担当者22名、署等担当者5名の27名が参加しました。

東北ブロックでは「トータルコスト低減に向けた路網と作業システムの改善」を研修テーマに、関連した技術的知見、現地検討のポイントなどを習得し、現地において地形・地質に応じた路網線形や、生産性の向上について何が必要なのかについて実践的な指導・助言ができるようになることを目標としています。

講義では、岩手大学澤口勇雄教授より地形傾斜・作業システムに関する基礎的知識や森林作業道指針のポイントのほか、2013.8.9豪雨による岩手大学御明神演習林の施設災害状況からの切土法面の崩壊傾向や森林作業道の技術課題等について学びました。

現地演習では、低コスト路網の観点から丈夫で簡易な構造や既存路網の精査・検証、林分状況に応じた使用機械の組み合わせ方などによる作業システムの改善による労働生産性向上の観点について現地検討を行いました。

また、実際にハーベスタによる伐倒から造材までの作業を見学しました。特に、普段は間近で機械伐倒を見る機会が少ないせいか、「1日当たりの処理量は？」などの熱心な質問が寄せられたほか、手足となる機械の性能(処理能力)と日常的メンテナンスなどについてオペレータより丁寧な説明をいただきました。



現地演習の様子



ハーベスタによる作業の様子

秋雨の中でしたが、研修生は所要の内容をしっかりと学ぶことが出来、それぞれ指導者としての基礎をマスターし、たくましく感じるほか、民・国の研修生同士のつながりも深くなり、今後もこのような機会が増えるべきと感じたところです。

～大苗による低密度植栽の取り組み～

林業の低コスト化に向け平成26年度から実施している低密度植栽の取り組みとして、スギの大苗(60cm上)を使用したha当たり①500本区、②1000本区、③1500本区の3タイプによる秋植の低密度植栽試験地を設けました。

場所は盛岡森林管理署管内の雫石町取染山国有林725林班。

雫石スキー場の南(直線約5km)に位置し、標高450m～500mのスギ・カラマツ皆伐(分収造林)跡地で、林道から約400mほど離れ、沢等を挟み約1000本の苗木運搬には多少時間を要しました。

9月上旬から10月はじめにかけて発生した台風の影響による天候不順であったことや、現地は藪で生い茂り、ブロック区設定の刈払作業や周囲の標示に予想以上の時間を要しました。

また、作業途中で3箇所でおオスズメバチの巣が発見され、駆除等の安全確保にも時間を要しましたが、変更作業の段取りで連携した結果、予定どおり試験地の設定を終えました。

試験地は多雪地帯なので、今後は気象状況に留意して降雪直前と雪解け直後の現況確認を実施する予定です。



H27.10.5
(苗木搬入時)



H27.10.22
(植付から16日目)





なかどまり町民文化祭 に参加しました！

当センターでは、中泊町で毎年秋に開催される『なかどまり町民文化祭』に参加し、地域との交流を深めています。



今年の町民文化祭は10月31日（土）に開催され、当センターから職員5名が参加し、「樹木とのふれあいコーナー」や「木工教室」、パネル展示などを通じて国有林や当センターに関するPRを行いました。昨年好評だった木工教室が今年も人気で、親子連れや小学生達が思い思いの作品を作っていました。また、今年は森林に関するクイズの正解者に、木の枝を使って作った温度計をプレゼントする企画をはじめ、当センターの技術開発課題に関連するヒバの空中取り木苗やコンテナ苗の展示を行いました。この町民文化祭が「国有林」や「森林の大切さ」に興味を持つきっかけになればと思います。

森をさんぽ

森林技術専門官
増田 悠介



もう冬の足音が近づいており、空を見上げれば、オオハクチョウの群れが飛んでいます。

東北の山では今年はブナの実が豊作～並作のようです。ということは、来年は山でツキノワグマの親子を見る機会が増えるかもしれませんね。

なぜなら、熊は秋に栄養をとり脂肪をためないと、受精卵が着床せず、子供が産まれないのだとか。メス熊は冬眠中に産卵し育てて、春に出てきますが、通常2頭産み、オスとメスの双子なのだそうです。

なぜ双子でオス・メスなのか、理由はわかりませんが何とも不思議ですね。

以前、山で熊に遭遇したことがあるのですが、遭遇した際は目が点になってしまいました。幸い、その時は熊の方から離れていきましたが、一歩間違えれば怪我をしていたかもしれません。

それ以降、熊に遭遇しても大丈夫のように、熊よけの鈴、熊よけスプレー、鉈などを携帯するように心がけています。そのおかげか？それ以来熊には遭遇していません。

来年は山に出かける際、ツキノワグマに遭遇する可能性が今年より増えると思うので、登山、山菜採り、溪流釣り等に行く場合は、熊よけの鈴、熊よけスプレーなどを携帯する事をおすすめします。



センサーカメラが
とらえたツキノワグマ

編集後記



今年も残すところあと1ヶ月。日に日に寒さが増し、いよいよ冬本番！と思いきや、今年は初雪が例年よりだいぶ遅いようでここ中泊でもまだ雪が降っていません。（私にとっては願ったり叶ったりですが）

試験地での調査に加え出張やイベントが続いていましたが、ここへ来て一段落といったところです。

とは言うても、来月開催される技術開発委員会まで時間もないので担当者もうしばらく忙しい日が続きます。